

# JAPRS

*JUN.2024 No.2*  
初夏号

一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

# 目 次

令和6年JAPRS新年会	1
第22回スタジオ見学会「Xylomania Studio」	2
マルチトラック録音時のデジタルリファレンスレベルの改定について	6
第30回プロ録音楽録音賞に向けて	7
会員動向	12
経済構造実態調査へのご協力のお願い	14

## 令和6年 JAPRS 新年会

1月24日（水）、コロナ禍を経て4年振りとなる令和6年JAPRS新年会がパトール東京1F「メイン会場」にて開催されました。（参加者86名）

18:30 総務委員会・萩原氏（稲葉建設）の司会により開宴となり、最初に高田会長が新年の挨拶、それに続いて「音楽の魅力」「音の力」をテーマとし、2023年の業界動向と次世代JAPRS指針について述べられました。



高田会長の挨拶



経済産業省 商務情報政策局  
コンテンツ産業課 課長補佐  
腰田 将也氏

続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 腰田 将也氏からご挨拶をいただきました。

続いて乾杯となり、関連団体を代表して当協会と多くのイベント等で連携させていただいている一般社団法人日本オーディオ協会専務理事 末永信一氏によりご挨拶、そして乾杯のご発声が行われ、歓談の時間となりました。



一般社団法人日本レコード協会  
専務理事 末永 信一氏

20:05 中メの時間となり、中村総務委員長挨拶そして一本締めの後、20:20 4年振りのJAPRS 新年会は無事に終了となりました。



中村総務委員長



新年会の様子

## 第 22 回スタジオ見学会「Xylomania Studio」

2024 年 2 月 1 日（木）、JAPRS 個人正会員でもあり、日本プロ音楽録音賞の Immersive 部門での受賞もされている 古賀 健一氏が運営する“Xylomaia Studo（台東区入谷）”の新しいイマーシブ対応スタジオ 2st を中心に第 22 回となるスタジオ見学会を開催しました。

17 名の参加者を 3 つのグループに分けて実施、各回とも岡田賛助委員長の挨拶の後に、古賀氏からスタジオの説明および試聴が行われました。



岡田賛助委員長



古賀 健一氏

Xylomania Studio には 2 つのスタジオがあり、1 つは既に数々の作品を創り上げたイマーシブ対応（Dolby Atmos、Sony 360 Reality Audio）であります。もう 1 つの 2ch 対応であったスタジオを改修することで新しいイマーシブ対応（Dolby Atmos 11.2.6 および、Sony 360 Reality Audio 9.0.6.4）のスタジオ 2st を立ち上げたということです。

Sony 360 Reality Audio のレギュレーションではフロント下層に 3 つのスピーカー設置となっていますが、古賀氏の考え方によると、真ん中のスピーカーは機材等に当たって聞こえ難くなるために不要と考え、ここではフロントは 2 つのスピーカーとし、さらに定位感を安定させるためにリア側の下層にも左右 2 つのスピーカーが設置されていました。



2st（基本はレコーディングブースという考え方）

空間オーディオで再生する際に Side-2 と呼ばれる 135°（9.1.6 で再生する際のレギュレーション範囲内）に設置したスピーカーが鳴るようにしているが、映画に向けたダビングステージで再生した場合の差異を無くすために 155° のリアにスピーカーを設置しているとのことでした。



サイド側スピーカー配置（前方から 50° 100° 135° 155°  
リアスピーカー下には下層となるスピーカーが設置



マイクで収音された音に  
リバーブを付加しての体験

大変興味深かったのは、このスタジオはあくまで“レコーディングブースである”という考え方でした。そのために 1st で採用した PMC twotwo シリーズではなく、スピーカーの奥行の少ない PMC ci シリーズを採用し、レコーディングブースとしてのスペースを確保しているとのことでした。





レコーディングブースとして使用の際、  
移動可能な 2st のデスクとラック類

このブースで収録した音にシミュレートしたリバーブを付加して空間オーディオとして再生することで、セッティングしたマイクにその音の響きを被りとして作り出し、収録される音に空気感を付加することが出来るとのことでした。

ここはあくまでブースが前提なので、設置された機材の殆どは可動ラックに納め、ブーストしての使用時には片付けることが出来るようにされていました。

た。

そして、レコーディングブースとしての使用や映面对応の作業をすることから、小規模なスタジオながらエアコンもダクト型を採用して、空調ノイズを極力抑えているとのことでした。

また、このスタジオの施工はいわゆる建築音響会社の手によるものではなく、電気・空調含め古賀氏指示のもとで一般住宅を施工されている方が行っているとのことでした。(ワイヤリングや音響内装のインベージア施工は別)



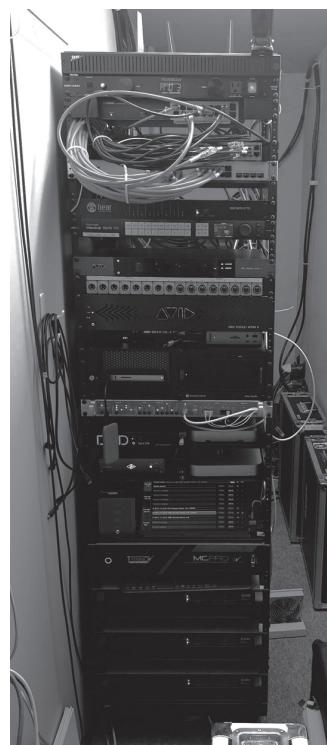
マシンルームについて  
説明する古賀氏

多くのスタジオは一旦調整が終わると長くそのままの状態で使用されることが多いのですが、再生状態は刻々と変化するので、何か違和感があったら絶えず古賀氏により調整が行われているとのことでした。

自分自身が大きく関わりスタジオ作りをすることでその結果をノウハウとして蓄積して、自身のスキルアップに繋げるという拘りを強く感じました。

次にマシンルームへ移動し説明が行われました。マシンルームは 1st と 2st の間に設置されており、2つのスタジオの連携を含め、Dante や Digi Link を駆使して様々な状況に対応出来るように工夫がされており、音楽系の多くあるケースの PC 持ち込みにも対応しているとのことでした。

そして、3年前に作られたイマーシブ対応の 1st へ移動、ここは PMC の twotwo シリーズが使用されています。スピーカーは 9.1.4 仕様（いずれ 9.1.6 に変更予定）となっており、2st と同様に 360 Reality Audio 用の下層スピーカーはフロント 2



1st と 2st の間にある  
マシンルーム



1st コントロールルーム

つ、リア 2つが設置されていました。（フロント側は 45°、リア側は 145°の角度で設置）

サブウーファーは 4 本で、以前は 2 本ずつ立積みにして左右配置としていたそうですが、部屋モード対策のため、現在は 4 本をばらした設置として、距離の差をディレイ補正している



1st リアスピーカー

とのことでした。

以前はディレイ使用により起こる脳内補正を避けていたとのことですが、部屋のモードにより低音が落ち着かないところがあったので、スピーカー位置を模索した結果、その距離差の補正のためにディレイを使用しているとの説明がありました。

両方のスタジオにおいて空間オーディオコンテンツの試聴をさせていただきましたが、小規模スタジオで限られたスペースでありながら、中低音においてもしっかりとした音響調整がなされており、建築音響から設備に至るまで拘り抜いている様が垣間見え、空間オーディオを広く普及させたいという古賀氏の思いが強く感じることが出来ました。

是非多くの方々に本物の空間オーディオを体感いただき、コンテンツ制作が活性されることを切に願います。

お忙しい中、3回に渡りスタジオ説明をいただいた古賀 健一氏、そして見学会をサポートいただいた同スタジオのアシスタントエンジニア 久保 勇斗氏に感謝いたします。



1st に設置された  
PMC 社サブウーファー



1st ラックに納められた機材類

## JAPRS 第 22 回スタジオ見学会 ～「Xylomania Studio」～ 見学レポート

ESP 学園 井良沢 元治

今回は、小規模で使いやすいスタジオが下町入谷にあるとの噂を聞いて、鶯谷南口に出る予定が、なぜか気持ちが高ぶり北口で降りてしまいました。

Dolby Atmos のスタジオは、JAPRS 関係と個人的にいくつかの箱で体験してきましたが、Xylomania Studio チーフエンジニア古賀氏の立体音響に対する情熱と研究熱心さに感銘を受けました。

基本的に DIY の手弁当の改装を幾度も、キャッチ&トライしてきた経験の中で判断してきた結果から、説明が分かりやすく自信満々さに現れており、立体音響を広める環境づくりのためのスタジオ料金を安価にする工夫とその理由はおっしゃる通りだと感じました。

私がスタジオ見学会に参加した時間帯は、施工会社様が多かった事もあり、楽しくコアな施工に関する意見交換を感じられました。また、専門学校への古い授業内容への指摘も勉強になりました。

大手のスタジオと違う、コンパクトスタジオでの立体音響体験を、まずは 2st から。

ここでは電源から機材の詳細に触れませんが、スピーカーから聴こえたイメージを伝えたいと思います。

最近“流行りの PMC”と良く耳に入ってきますが、私はかなり以前に友人のエンジニアが「並行輸入で買ったから低域を聞きに来てよ！」と誘いを受けてそのサウンドを体験しましたが、当時は高価で驚いたそのスピーカーから再生されたサウンドには、綺麗な

奥行きのある良いイメージの記憶が残っています。最近ではサウンド・シティ『tutumu』でPMCを体験しました。今までG/M/F/A etc. 社様の立体音響を聞いてきましたが、部屋の調整が良いのでしょうか、そこで鳴っているPMCがより良く聴きやすく判断しやすい空間でした。

2st スピーカー構成はPMC 社 ci シリーズ、

Front ci 140×3/Wide ci 65×2/Side ci 65×4/Rear ci 65×2/Height ci 45×6/

Bottom ci 30×4/Subwoofer ci 140SUB×2

Power Amp : Linea Research/88C03 (8ch) × 3

次に1st スピーカー構成はPMC 社 twotwo シリーズ

フロント LCR は twotwo.8、Ls/Rs/Lb/Rb/

360 Reality Audio 用のボトムは twotwo.6、サブ・ウーファーは twotwo sub2×4、

トップは twotwo.5×4 という構成だったと思います。



2st のフロント側スピーカー

両スタジオはスピーカー構成や部屋も違うので勿論聞こえ方は変わって聞こえますが、空間のつながりや立体感は双方似た色合いに感じました。

立体音響スタジオは箱の大きさでなく、良く考えた施工と正しいスピーカー調整で決まるのではないのでしょうか。

素人的に同じ時間に2つの立体音響の部屋を移動し聴けて大変貴重な経験になりました。

最後に、Apple Music は Dolby Atmos、Amazon Music は Dolby Atmos と 360 Reality Audio を空間

オーディオと呼び、立体音響フォーマットが乱立し、どんな環境で聞けば良いのか、イヤホンやヘッドホンでも良いのか？、ユーザーの私自信が全体を把握しづらい昨今、失礼な言い方かも知れませんが、フォーマットより「立体音響」を作れるスタジオ環境と若いエンジニアが増えて、簡単にアウトプット出来る時代が来ていると思います。

今後の「Xylomania Studio」の活躍に期待します。

わずかの時間でしたが、立体音響の楽しい体験見学出来ました。古賀様、久保様、説明ありがとうございました。

賛助委員会の岡田様、西原様、スタジオ見学会を企画いただきありがとうございました。



2st のサイドスピーカー



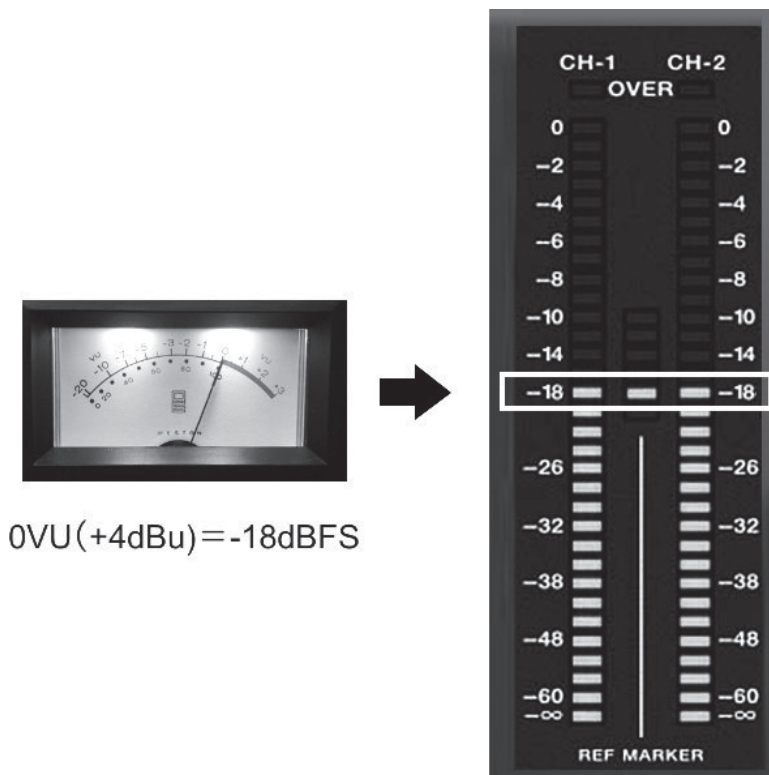
## マルチトラック録音時のデジタルリファレンスレベルの改定について

(一社)日本音楽スタジオ協会(以下JAPRS)では、デジタルマルチトラックレコーダーが登場した当時、アナログレコーダーとのレベル相関やデジタル機器が持つS/N比や16bitというレゾリューションによるダイナミックレンジを踏まえて「0VU(+4dB) = -16dBFS」を長く推奨値として来ました。

しかしながら、現在のハイレゾリューション化によるダイナミックレンジの拡大やデジタルベースでの信号処理等の状況も踏まえてリファレンスレベル改定に関する提案書を数名のエンジニア有志からJAPRS宛にいただいたことに端を発し、長く技術委員会や関連団体ともに検討を進めた結果、僅か2dBではありますがピークマージンを広く取ることによって得られる合理性から、「0VU(+4dB) = -18dBFS」を基本的な推奨値として改定することといたしました。(2024年4月1日からの運用。マルチトラック録音時に限る推奨値で、その他のマスタリング等におけるリファレンスレベルについて定めるものではありません。)

ただし、業務対応(アーカイブやポストプロダクション等)により即座に推奨値への対応が現状困難なJAPRS加盟スタジオにおいては「0VU(+4dB) = -16 or -20dBFS」も可としていることをご理解ください。

この機会に様々なスタジオにおかれましてもリファレンスレベルの意義を再認識いただき、録音データのやり取りをした際にスタジオによる設定の違いでアナログ機器との受け渡りでレベル差が生じないように、または事前にレベルの差異を把握して対応出来るようにしていただければ幸いです。



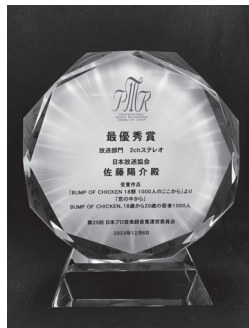


## 第30回日本プロ音楽録音賞に向けて

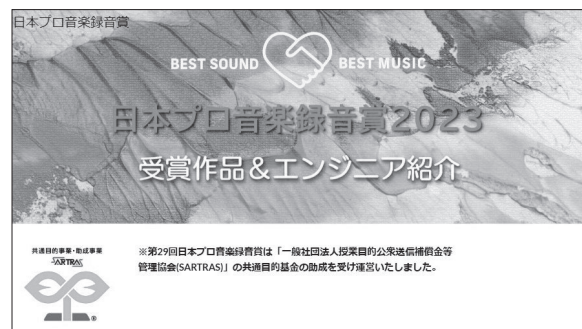
JAPRS 会報 2024 年新春号でもご報告しましたが「第29回日本プロ音楽録音賞」につきましては、昨年12月6日（水）に一般社団法人日本オーディオ協会が主催するイベント「音の日2023」の一環として東京千代田区 KANDA SQUARE HALL にて授賞式を開催いたしました。そして3月に報告書を発行し、運営委員会におきまして実施内容の報告および総括、次回開催に向けての課題検討を行いました。



表彰状



表彰楯



受賞エンジニア & 作品紹介ページ

昨年に引き続き一般社団法人日本オーディオ協会と連携し、OTOTEN 2023 における専門学校生向けのセミナーを始め、日本プロ音楽録音賞授賞式においても「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」表彰式と同会場での開催で、学生がプロのエンジニアによる受賞作品を試聴する機会や交流の場を作るなど、人材育成を絡めた働き掛けを意識して参りました。

そして、今年度は第30回と言う節目を迎えることもあり、今までの歴史を振り返り、あらためて「日本プロ音楽録音賞の意義」を多くの方々に伝える運営を目指して行きます。

※今年の運営につきましても、一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会が実施している共通目的事業としての助成を受けるべく申請の準備を進めております。

あらためて「日本プロ音楽録音賞の意義」を下記の通り示させていただきます。

### \* \* \* 日本プロ音楽録音賞の意義 \* \* \*

デジタル技術の進化により誰もが自宅等でコンピュータを使用した音楽制作が出来、自ら発信出来る時代となっておりますが、音楽制作の基本として、楽曲をどのようなサウンドで表現するかなどプロのサウンドクリエイターとしてのエンジニア力は、日本の音楽文化を向上するための重要ポイントと考えております。

今回の事業を推し進めることによる具体的な権利者団体への利益としては下記の2点が挙げられます。

- ①楽曲を如何に魅力的な音として作り上げるかは、その作品の訴求力向上につながり音楽ビジネス発展にも大きな影響がある。
- ②次世代エンジニアの育成は、音楽録音文化の向上そして日本の音楽録音スタジオ事業

にとって大変重要課題であり、日本プロ音楽録音賞を魅力のある賞として継続していくことが、若手エンジニアのモチベーションとなり育成にも繋がる。

以上

上記の通り、より一層人材育成を意識した開催を今年度も進める予定としており、第30回を迎える日本プロ音楽録音賞においても、引き続きレコーディングエンジニアという仕事についても広く認知されるような開催に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

第29回日本プロ音楽録音賞は「一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会」の共通目的事業・助成事業として運営されました。

「授業目的公衆送信補償金制度」の周知、ご理解を引き続きよろしくお願い申し上げます。

(<https://sartras.or.jp/seido/>)



共通目的事業・助成事業

SARTRAS



## 日本プロ音楽録音賞のあゆみ

※今年第30回を迎える日本プロ音楽録音賞の歴史を掲載させていただきます。

なお、第1回～第29回の日本プロ音楽録音賞の受賞作品は、JAPRS ホームページ「日本プロ音楽録音賞」にて掲載しております。

[https://www.japrs.or.jp/pro\\_rec/](https://www.japrs.or.jp/pro_rec/)



- 1993 年 最初は現在の「日本プロ音楽録音賞」の前身となる「日本音楽スタジオ協会賞」という名称にてスタート。
- 1994 年 現在の名称として「第1回 日本プロ音楽録音賞」がスタート
  - ・主催 (社)日本オーディオ協会、(社)日本レコード協会  
(社)日本音楽スタジオ協会
  - ・主体は(社)日本オーディオ協会となり、1877年12月6日を「音の日」と制定し、授賞式を「音の日」として開催する。
- 1995 年 第2回日本プロ音楽録音賞
  - ・主催に日本放送協会が参加し、協賛として日本民間補放送連盟が加わる。

- ・審査区分 オーディオアコースティック部門  
オーディオノンアコースティック部門  
放送部門
- 1996 年 第3回日本プロ音楽録音賞  
・審査区分として国内審査部門、海外審査部門として審査顕彰
- 1997 年 第4回日本プロ音楽録音賞  
・審査委員長：菅野 冲彦氏、富田 勲氏、浅見 啓明氏の3委員体制
- 1998 年 第5回日本プロ音楽録音賞  
・後援に通商産業省（現 経済産業省）、文化庁、（株）音楽出版社が加わる。  
・審査区分：部門 - 1 ジャズ、クラシック / 部門 - 2 ポップス、ロック /  
部門 - 3 放送及びオーディオビジュアルパッケージメディア
- 1999 年 第6回日本プロ音楽録音賞  
・（社）私的録音補償金管理協会（sarah）の助成事業となる。  
・主団体として日本プロフェッショナルオーディオ協議会（PAS）、日本ミキサー協会（JAREC）が加わり、主催6団体となる。
- 2000 年 第7回日本プロ音楽録音賞
- 2001 年 第8回日本プロ音楽録音賞  
・運営事務局を（社）日本オーディオ協会（JAS）から（社）日本音楽スタジオ協会（JAPRS）へ移行する。
- 2002 年 第9回日本プロ音楽録音賞  
・日本プロフェッショナルオーディオ協議会（PAS）が主団体から協賛に移行。  
・審査区分：  
部門 - 1 パッケージメディア：クラシック、ジャズ（アコースティック楽器）  
部門 - 2 パッケージメディア：ポップ、ロック  
（打込み系ノンアコースティック録音）  
部門 - 3 パッケージメディア / オーディオビジュアル  
（映像を伴うパッケージメディア）  
部門 - 4 放送部門  
・審査委員  
部門 - 1 パッケージメディア：クラシック、ジャズ（アコースティック楽器）  
\*オーディオ評論家先生 等  
審査委員長 菅野 冲彦氏  
審査委員 斎藤 宏嗣氏、柴田 修平氏、長澤 祥氏、柳沢 功力氏、別宮 環氏  
部門 - 2 パッケージメディア：ポップ、ロック  
（打込み系ノンアコースティック録音）  
審査委員長 富田 勲氏  
審査委員 内沼 映二氏、奥村 誠二氏、川崎 洋氏、原田 光晴氏、吉田 保氏  
部門 - 3 パッケージメディア / オーディオビジュアル  
（映像を伴うパッケージメディア）  
部門 - 4 放送部門  
審査委員長 浅見 啓明氏  
審査委員 石野 和夫氏、梅津 達男氏、加藤 茂樹氏、馬場 哲夫氏、  
吉川 昭吉朗氏
- 2003 年 第10回日本プロ音楽録音賞  
・主催（社）日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会

- ・協賛 (社) 日本オーディオ協会、(社) 日本レコード協会、日本放送協会、  
(社) 日本民間放送連盟、日本プロフェッショナルオーディオ協議会
- ・受賞区分：部門 -A CD パッケージメディア  
部門 -B ニューパッケージメディア DVD-A、SACD、DVD-V  
部門 -C 放送メディア
- ・総合審査委員長：浅見 啓明氏（審査委員長 1 名体制）  
審査委員  
部門 -A,B CD パッケージメディア  
石野 和夫氏、内沼 映二氏、梅津 達男氏、北川 照明氏、清水 邦彦氏、  
寺田 康彦氏、永井 秀文氏、山口 照雄氏、吉田 保氏  
部門 -C 放送メディア  
浅見 啓明氏、石野 和男氏、加藤 茂樹氏、亀川 徹氏、小泉 準之助氏、  
清水 幸男氏
- 2004 年 第 11 回日本プロ音楽録音賞
- ・主催 (社) 日本オーディオ協会、(社) 日本レコード協会、  
(社) 日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会
- ・協賛 日本放送協会、(社) 日本民間放送連盟、  
日本プロフェッショナルオーディオ協議会
- 2005 年 第 12 回日本プロ音楽録音賞
- 2006 年 第 13 回日本プロ音楽録音賞
- ・主催に演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest [現：(一社) MPN]  
が加わる。
- ・審査委員長：内沼 映二氏
- 2007 年 第 14 回日本プロ音楽録音賞
- ・協賛としてサウンド&レコーディングマガジン、CD ジャーナル、  
スイングジャーナル、ステレオサウンド、レコード芸術が加わる。
- ・受賞区分としてベストパフォーマー賞が加わる。
- ・審査区分：部門 -D ニューパッケージメディア DVD-A、SACD、DVD-V  
(マルチ ch サラウンド)
- 2008 年 第 15 回日本プロ音楽録音賞
- 2009 年 第 16 回日本プロ音楽録音賞
- ・受賞区分特別賞：アビット賞
- 2010 年 第 17 回日本プロ音楽録音賞
- ・受賞区分特別賞：アビット賞、SSL 賞
- 2011 年 第 18 回日本プロ音楽録音賞
- 2012 年 第 19 回日本プロ音楽録音賞
- ・受賞区分として新人賞を選定
- ・2ch オーディオファイル賞を選定
- 2013 年 第 20 回日本プロ音楽録音賞
- ・審査区分：部門 -D 「2ch ノンパッケージ」ジャンル問わず  
部門 -F 「放送メディア」マルチチャンネルサラウンド
- 2014 年 第 21 回日本プロ音楽録音賞
- 2015 年 第 22 回日本プロ音楽録音賞
- 審査区分
- ・CD 部門 ジャズ、クラシック、フュージョン



- ・ CD 部門 ポップス、歌謡曲
- ・ ハイレゾリューション部門 2ch ステレオ ジャンル問わず SACD、DVD-A、BD & ノンパッケージ
- ・ ハイレゾリューション部門 マルチ ch サラウンド ジャンル問わず
- ・ 放送部門 2ch ステレオ
- ・ 放送部門 マルチ ch サラウンド
- ・ ベストパフォーマー賞
- ・ 新人賞
- 2016 年 第 23 回日本プロ音楽録音賞
- 2017 年 第 24 回日本プロ音楽録音賞
  - ・ 新人賞をニュープロミネント・マスター賞に変更
- 2018 年 第 25 回日本プロ音楽録音賞
- 2019 年 第 26 回日本プロ音楽録音賞
  - ・ アナログディスク特別賞を選定
- 2020 年 コロナ禍の為に中止とする。
- 2021 年 第 27 回日本プロ音楽録音賞
- 審査区分
  - ・ Best Sound 部門 クラシック、ジャズ、フュージョン
  - ・ Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲
  - ・ Super Master Sound 部門 ジャンル問わず  
PCM176.4kHz, DSD5.6MHz 上位ファイル
  - ・ Immersive 部門ジャンル問わず
  - ・ アナログディスク部門
  - ・ 放送部門 2ch ステレオ
  - ・ 放送部門マルチチャンネルサラウンド
  - ・ ベストパフォーマー賞
- 2022 年 第 28 回日本プロ音楽録音賞
  - ・ 受賞会場 神田スクエアホール
  - プロ録運営委員会 / 日本プロ音楽録音賞授賞式、オーディオ協会主催 / 学生録音コンテスト受賞作品表彰式を同会場にて行う。
  - \* 12 月 6 日「音の日 2022」イベントの一環として
  - ・ Best Sound 部門 ポップス、歌謡曲 / 35 歳以下の部 エンジニアを顕彰  
(次世代エンジニアを応援)
- 2023 年 第 29 回日本プロ音楽録音賞
  - ・ (一社) 授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) 共通目的事業としての助成金を受けて運営。
  - ・ Immersive 部門 優秀作品の内容を踏まえて、打ち込み系作品：プログラミング・サウンド、アコースティック楽器中心の作品：アコースティック・サウンドに区分する。
  - ・ 30 歳代までのエンジニアに対し、ニュー・プロミネント賞を選定  
(次世代エンジニアを応援)

以上

## 会 員 動 向

### 1. 会員数（令和6年6月1日現在）

正会員（法人）	20 法人	準会員	2 法人
正会員（個人）	12 人		
賛助会員Ⅰ	42 法人	賛助会員Ⅱ	2 法人

### 2. 入会

#### ①準会員

タッキーズ・マスタリング株式会社 4月1日付

#### ②賛助会員

株式会社 ユーズドネット 3月1日付

学校法人 田中育英会 東京工学院専門学校 4月1日付

### 3. 退会

#### ①個人正会員

目等 進 3月31日付

#### ②賛助会員Ⅰ

株式会社エス・イー・エス 3月31日付

### 4. 法人・会員代表者および住所変更、その他

#### ①法人正会員

##### ○法人名変更

（旧）株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント

（新）ビクターエンタテインメント株式会社

#### ②賛助会員Ⅰ

##### ○法人名変更

（旧）学校法人 Adachi 学園

（新）学校法人 21 世紀アカデメイア

##### ○理事長変更

学校法人 21 世紀アカデメイア

（旧）安達 暁子

（新）田坂 広志

○学校名変更

(旧) 専門学校東京ビジュアルアーツ

(新) 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー

(旧) ビジュアルアーツ専門学校

(新) 専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー

(旧) 専門学校名古屋ビジュアルアーツ

(新) 専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー

○会員代表者変更

音響芸術専門学校

(旧) 西尾 嘉高

(新) 芹沢 恵里奈

○会員代表者変更

専門学校東京ビジュアルアーツ

(旧) 平野 周吾

(新) 岩谷 千束

○法人代表者変更

学校法人尚美学園

(旧) 久保 公人

(新) 永山 賀久

5. その他

○理事長変更

日本舞台音響事業協同組合

(旧) 西澤 勝之

(新) 藤井 修三

## 経済構造実態調査へのご協力のお願い

総務省・経済産業省では、令和6年6月に全ての事業所・企業や団体を対象とした「経済構造実態調査」を実施いたします。

この調査は、統計法（平成19年法律第53号）に基づき実施する国の重要な統計調査（基幹統計調査）であり、報告義務のある調査として実施します。（5年ごとに実施する「経済センサス-活動調査」の中間年の実態を把握することを目的とした調査です。）

ご回答いただいた調査内容は統計法に基づき、厳重に保護されます。

調査をお願いする企業・事業所や団体の皆さまには、国が調査を委託した事業者から、調査書類を5月から順次郵送いたしますので、インターネットにて、ご回答をお願いいたします。（郵送での回答も可能です。）

詳しくは、以下のURLから経済構造実態調査のホームページをご覧ください。

<https://www.stat.go.jp/data/kkj/index.html>



### 【主な目的】

国民経済計算の精度向上 / より正確な景気判断や効果的な行政施策の立案 / 企業の経営判断

### 【調査対象・事項】

製造業及びサービス産業に属する一定規模以上の全ての法人企業（甲調査）、特定のサービス産業に属する企業及び事業所（乙調査）が対象です。

甲調査：（対象）個人経営の企業及び農林水産業、建設業等、一部の産業に属する企業を除く全ての産業分野の企業

（事項）経営組織／資本金／企業全体の売上及び費用の金額／主な事業の内容／事業活動の内容および事業活動別売上金額など

乙調査：（対象）特定のサービス業に属する無作為抽出により選定された企業・事業所

（事項）事業の形態／売上金額／会員数／年間契約件数／入場者数／従業員数など



## ♪ 編 集 後 記 ♪

皆様、お疲れ様です。最近会社の若者に聞くと、自宅にテレビが無いという方が増えている様ですね。むしろ家にテレビが無いという人の方が多いくらいです。NEWSを見るでもドラマを見るでもスマホやタブレットがあれば十分ということでしょう。ほぼほぼYouTubeという人もかなり多いですね。私の生活習慣からするとテレビの無い生活はちょっと考えられないのですが・・・。NHK「ブラタモリ」が終わってしまってもとても残念に思っているのですが、「新プロジェクトX」も面白いので毎週録画している昭和な人間です。

Ryu1.N

異常気象と言いますが、こうした変化がなければ今の地球は無かったんだと思ったりもします。もちろん人間がやるべきことはやるとして、変化を封じ込めるだけではなく、受け入れながら先を見ることも大切だと思います。

Pesonai

あっという間に春が過ぎ、毎年のことながら今年の夏も暑くなるようです。たまには遠出でもしてリフレッシュしたいところですが、何か計画でも立ててみますか。

mm

\*\*\*\*\* 総 務 委 員 会 \*\*\*\*\*

委 員 長 中村 隆一（ミキサーズラボ）

委 員 内藤 重利（事務局）

” 伊東 真奈美（ ” ）

\*\*\*\*\*

【発行人】 会 長 高 田 英 男 【発 行】 2024 年（令和 6 年）6 月

【発行所】 一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 1 番 11 号 モナーク大久保 3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

<https://www.japrs.or.jp> E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編 集】 総 務 委 員 会 【印刷所】 株式会社研恒社



# JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios

<https://www.japrs.or.jp> E-mail: [japrs@japrs.or.jp](mailto:japrs@japrs.or.jp)